

子育て・教育

第二種郵便物認可

ご感想、情報は・Eメール life@sankei.co.jp  
・FAX 03・3270・2424

# 小学校の英語教育の早期化検討

小学校の英語教育の早期化が検討される中、子供向けの英会話スクールや英語塾が多様な取り組みを始めている。英語を学ぶ小学生や就学前の子供の数も着実に増えている。

生徒数は大きく増加

「10年前と今では大きく環境が変わり、英語を学ぶ子供の数の伸びは大きい」英会話スクール「イーオン」の広報課、森田繁雄課長代理はこう説明する。実際に同社で1歳から中学生までを対象とする「イーオン・キッズ」で学ぶ子供の数は今年、約5万1千人にまで増加。「10年前は3万人程度だった」といい、7割増加している計算。イーオン全体では約10万人で、子供が半数を占めている。中でも関東地方では平成24、25年と連続して子供の新規入会が前年比3割増と伸びた。

森田課長代理によると、以前はおけいこ感覚で子供に英語を学ばせる親が多かったが、平成23年度から小学校5、6年生の外国語活動が必修化されたことで状況が変化。はつきりと上達の結果を求める親が増え、英語検定など資格取得のニーズが増えてきたという。こうした状況に対応するため、25年4月には、3、

## 資格取得、算数・理科で...学び多様化

4年生と5、6年生を対象にした「文法コース」も導入した。英検5〜3級に対応する内容で、「聞いて話せる」という音の学習に加え、読んで書けるという英語の基礎力が身に付くので、驚くほど人気が出ている」という。

「英会話を通じて身に付けた理屈を文法で確認する方が理解が深まる」という利点もある。



子供達が卵を毛布に投げ、割ることができるとどうかの理科の実験をしている。「キャン・ユー・ブレイク・イット?」。割れるかどうかを講師は英語で尋ねた。

17年の開業当初から、教える英語の題材は算数や理科の実験だ。小学校の英語教育早期化の動きに伴い、入会の問い合わせも増えている。

## スクールや塾、新規入会の伸び大きく



⑥理科の実験などをテーマに英語教育を行うマリススクールの授業風景  
⑤英会話教育の早期化の動きに伴い、イーオン・キッズでは英語を学ぶ子供が増えている

川崎美智子代表は、「読解力が必要な物語では、どうしても日本語に翻訳して理解しようとするため、英語そのものが(頭に)入っていかない」と説明。算数や理科の実験なら答えがはっきりしているため、「英語が耳や目から入り、英語を英語のまま理解できるようになる」という。算数や理科の答えが分かったら、「英語も理解した気になり、その方が英語の上達は早い」とも指摘する。

## 英会話スクールに子供通わせる親 8割が「早期化」歓迎

小学校の英語教育早期化について、英会話スクールに子供を通わせる親は、歓迎派が大半だ。イーオンが今年3月に発表した「イーオン・キッズ」に通う小学生以下の保護者約400人を対象にした調査によると、小学3、4年から英語教育を始めることについて、約79%が「よいこと」との認識で、「早すぎる」(約3%)という意見を大幅に上回った。英会話スクールに対しては「英語が話せるようになる」ことを望む親が半数以上いるものの、学校教育の英語では「(進学、成績のため)勉強ができるようになる」ことを望む保護者が最も多かった。

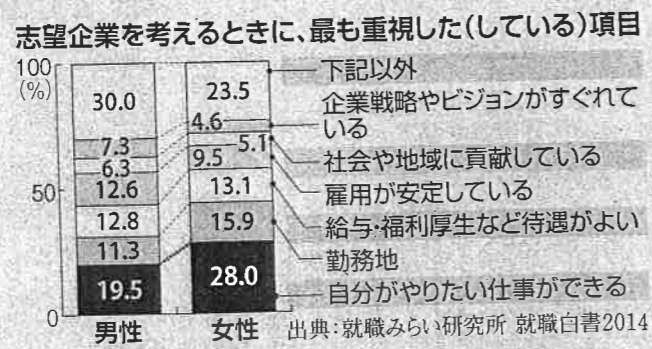
親に「好きなことを仕事にしたい」といっつのはワガママ  
だ」と言われ、悩んでいます

**A** 就職活動は幅広く社  
会を知る機会。好きな  
ことを軸に視野を広げてみよ  
う  
就職活動を控えた大学3年  
の女子学生から、こんな声が  
寄せられました。  
「かわいい洋服が大好きで  
す。洋服に関連する仕事なら  
できそうかな」と父に話すと  
「好きなことだけやりたい、  
どいうワガママは通用しな  
い」と言われました。でもそ  
れ以外にイメージできるもの  
もなく、困り果てています」  
自分のやりたいことを重視

する学生は、少なくありません。『就職白書2014』によ  
ると、女子学生にその傾向  
が強いことが分かります。メ  
ディアなどで「好きを仕事  
に」して活躍する女性たちが  
取り上げられていることも、  
そうした生き方・働き方への  
憧れを誘う一つのきっかけに  
なっているようです。  
「夢中になれるほど好きな  
ものがある」と、「やりが  
いが持てる仕事に就きたい」  
と考えること、いずれも素晴  
らしいことです。何が好き  
か、何にやりがいを感じるか

## 就活コンシェルジュ

## 活動は幅広く、視野を広げて



志望企業を考えると、最も重視している項目は個性が表れる部分。よりよい人生を歩むには、自分をよく理解してさまざまな選択をすることが欠かせません。一方で、活動開始前に対象業界や企業を絞り込み過ぎてしまえば、就職先がなかなか決まらない人が後を絶たない現

実もあります。漫画が大好きで出版社を志望した大学4年のSさんの場合。漫画を発行する会社がか  
なり限定的で募集人数も各社  
数人だと、就職活動のさなか  
に知りました。6月から活動  
をやり直し、9月に内々定を  
得た情報系企業への就職を決  
意。「コンテンツをつくる」と  
いう出版社との共通項を見  
いだせたからです。最初  
から幅広く見ていけば、違っ  
た道もあったかも」と思うこ  
ともあるそうです。

就職活動に関する疑問や体験をお寄せください。読者の参考になるものは、就活コンシェルジュで紹介させていただきます。  
〈メール〉 life@sankei.co.jp 〈FAX〉 03・3270・2424

『就職みらい研究所』  
所長 岡崎仁美